



絆（きずな）

目指す児童像

- やさしい子
- よく考える子
- ふるさと思いの子

日常の授業から

ゴールデンウィークが終わり、学習に集中して取り組める時期になりました。学校生活の大部分を占めるのは授業の時間です。日常の授業を充実させていくことが最重要課題です。



1年国語の授業の様子

左の写真は1年国語の授業の一コマです。「たのしいなことはあそび」というテーマで、「あ」のつく言葉を子どもたちから集めていました。

発表するときには単語ではなく、「～です」をつけていました。これは発表の基本です。しっかり身に付けさせたいことの1つです。

授業では、子どもたちから発表のあった「あ」のつく言葉を手拍子を打ちながらいっしょに唱えていました。「しゅ」など小さい「ゆ」が付く言葉は、二文字で一音扱いになることを認識させるために、大変有効な指導だと思いました。語彙を増やし、正しく言葉をつかうことができるためには、低学年での指導が極めて重要だと思いました。



3年算数の授業の様子

左の写真は3年算数の授業の一コマです。線分図を書いて問題を解いていました。低学年では具体物やテープ図を使っていましたが、中学年ではレベルアップし線分図が登場します。文章を読み取って、分かっていることは何か？何を問われているのか？を自分で判断して、線分図で表す力が求められます。

この時間は一人一人が書いた線分図をペアやグループで発表し、さらに全体で4通りの線分図の中から、どの線分図が最もよい書き方をしているのかを考えさせていました。発表した子たちは、他の子たちに自分の考えを伝えようと一生懸命にがんばっていました。他の人に分かりやすく説明する力を育成できる活動だと思いました。これからの社会では、必要な情報を自分が選択し、他の人に分かりやすく表現することがますます重要になります。教科を問わず、日常の授業で取り組んでいきたいことの1つです。